パリよ、永遠に（2014）

DIPLOMATIE

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 フランス／ドイツ
色彩 Color
時間 83分
初公開日 2015/03/07
公開情報 東京テアトル
映倫 G

【キャッチコピー】
もしも、
「パリ」が消えていたら――
世界は、どうなっていただろう

【解説】
第二次世界大戦末期に、敗色濃厚なヒトラーが実際に計画した“パリ壊滅作戦”がいかにして回避されたのか、その歴史秘話を描いたシリル・ジェリーのヒット舞台を、「ブリキの太鼓」「シャトーブリアンからの手紙」の名匠フォルカー・シュレンドルフ監督が映画化した仏独合作映画。ヒトラーにパリの破壊を命じられたドイツ軍人と、それを思い止まらせるべく決死の直談判を決行した中立国スウェーデンの外交官が、ホテルの一室で繰り広げる緊迫の駆け引きの行方をスリリングに綴る。主演はアラン・レネ作品の常連アンドレ・デュソリエと「預言者」「サラの鍵」のニエル・アレストリュプ。
1944年8月25日未明、ナチス・ドイツ占領下のパリ。連合軍の進軍がパリ市街へと迫る中、ドイツ駐留軍が陣を構える高級ホテル“ル・ムーリス”では、パリ防衛司令官ディートリヒ・フォン・コルティッツ将軍を中心にある作戦会議が開かれていた。それは、ヒトラーが命じた“パリ壊滅作戦”を粛々と進めるためのものだった。しかし、ドイツの敗北はもはや避けられず、この作戦に戦略的な意味がないことは明白だった。やがて会議を終え、一人部屋に残ったコルティッツの前にどこからともなく現われたのは、中立国スウェーデンの総領事ラウル・ノルドリンク。パリ生まれのノルドリンクは、愛するパリを守るため、作戦の中止をコルティッツに迫るのだったが…。

【クレジット】

監督	フォルカー・シュレンドルフ	Volker Schlondorff	
製作	マルク・デ・バイザー	Marc de Bayser	
	フランク・ル・ウィタ	Frank Le Wita	
	シドニー・デュマ	Sidonie Dumas	
	フランシス・ボーフルー	Francis Boespflug	
原作戯曲	シリル・ジェリー	Cyril Gely	
脚本	シリル・ジェリー	Cyril Gely	
	フォルカー・シュレンドルフ	Volker Schlondorff	
撮影	ミシェル・アマテュー	Michel Amathieu	
編集	ヴィルジニ・ブリュアン	Virginie Bruant	
音楽	ヨルク・レンベルク	Jörg Lemberg	
出演	アンドレ・デュソリエ	Andre Dussollier	総領事ラウル・ノルドリンク
	ニエル・アレストリュプ	Niels Arestrup	ディートリヒ・フォン・コルティッツ将軍

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.

ブルクハルト・クラウスナー	Burghart Klaussner	ハウプトマン・ヴェルナー・エーベルナッハ
ロバート・スタッドローバー	Robert Stadlober	ブレッセンドルフ中尉
チャーリー・ネルソン	Charlie Nelson	コンシェルジュ
ジャン＝マルク・ルロ	Jean-Marc Roulot	

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.